

平成 25 年度研究成果情報

課題名：ノリ色落ち軽減化のためのカキ垂下養殖技術の開発

[背景・ねらい]

佐賀県のノリ養殖場では、冬季に発生する珪藻赤潮によるノリの色落ち被害が毎年のように発生しており、深刻な問題となっている。そこで、ノリ養殖に用いる支柱にカキの飼育器を複数垂下し、珪藻を効率的に摂餌させることや、排泄で窒素分を漁場に供給することによるノリ色落ちの軽減効果について把握する。

[成果]

- (1) 垂下養殖にあたり図 1 に示す飼育器(新珪藻パックン)を作製し、平成 25 年 12 月 30 日～平成 26 年 2 月 26 日の約 2 ヶ月間、前年度の 2 倍の面積(ノリ養殖漁場 2 小間分の面積)に設置し、試験を行った。その結果、ノリ色落ちの軽減効果については確認できなかった。
- (2) カキの生残率は約 93%と歩留まりが良く、身入り及び食味も良好であったことから、ノリとの複合養殖の可能性が示唆された。(図 2)。
- (3) 漁業者、漁協職員等に試食用のサンプル提供を行ない、試食者に対してアンケート調査を実施したところ、カキの身入り、味については良好な評価が得られたものの、サイズについては評価があまり良くなかった(図 3)。

[課題・問題点]

- ・ノリ色落ち軽減効果が確認できなかった。

[今後の対応]

・珪藻赤潮の原因プランクトンの一種であるアステリオネラの初発海域や滞留海域が概ね特定されてきたことから、初発・滞留海域において、カキ礁の造成等を行ない、色落ちの軽減効果について再検討する。

また、造成したカキ礁のカキの一部(特にスミノエガキのような有明海特産種)を、間引きを兼ねて取り上げ、沖合域で短期蓄養を行なうことによる身入り向上効果を確認する。

[その他]

研究期間：平成 25 年

研究担当者：普及担当 増田裕二

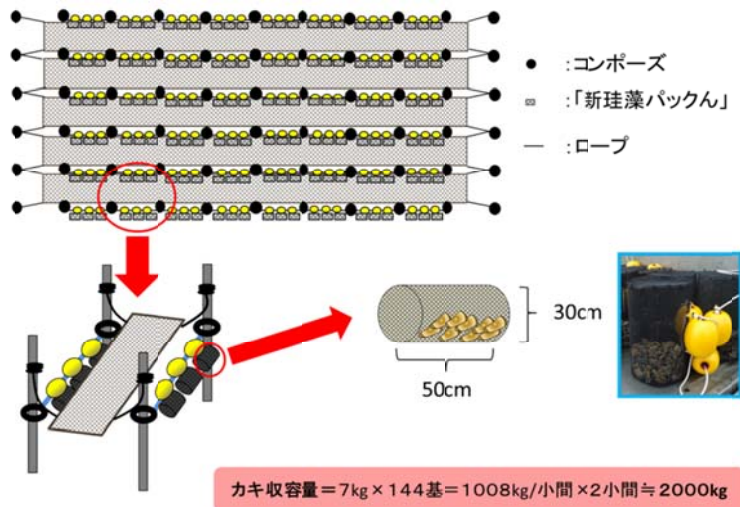


図1 試験概要図

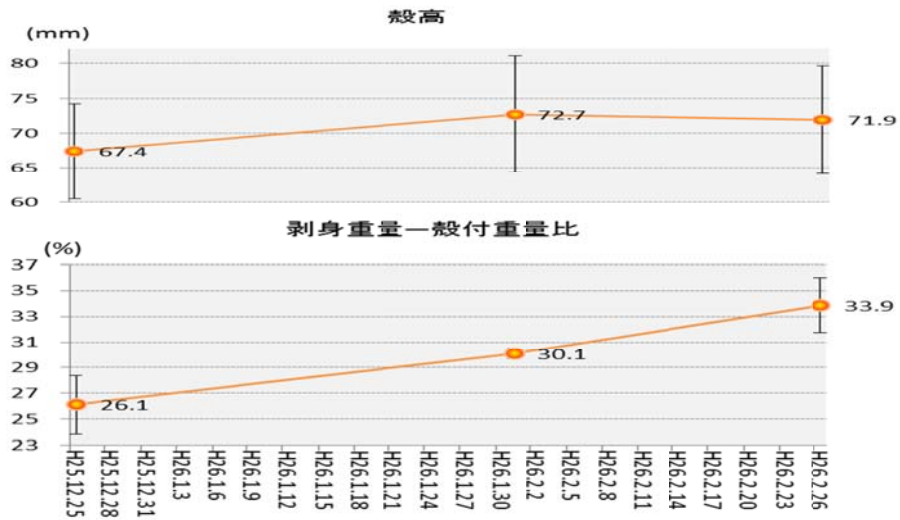


図2 試験結果(カキの成長・成熟)

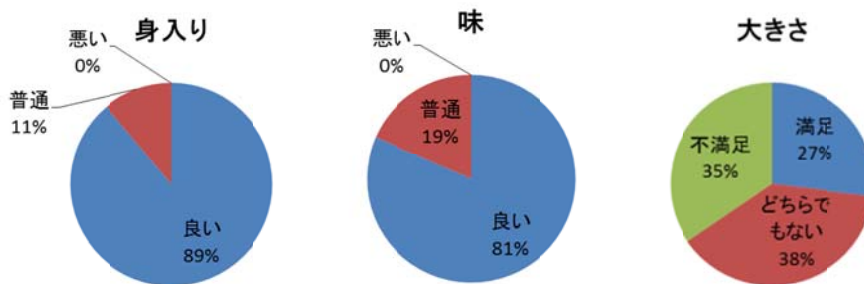


図3 試験結果(試食者へのアンケート結果)